

2024年12月の金融経済概況のポイント

■全体感

- 今月の総括判断は、「一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している」としています（7か月連続で判断を据え置き）。

■個人消費の動向

- 個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、堅調に推移しています。

（財消費関連）

- 大型店売上高は、底堅い動きとなっています。家電は、弱めの動きとなっています。
- 乗用車販売は、下げ止まっています。

（観光関連＜インバウンド需要を含む＞）

- 観光・旅行は、国内需要、インバウンド需要に支えられて緩やかに増加しています。ホテル・旅館宿泊客数、観光施設（旭山動物園、博物館網走監獄、ウトロ温泉）の入込客数合計、空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数合計は、引き続き前年を上回っています。また、旭川地区のホテル客室稼働率についても、引き続き前年を上回っています。

■公共投資の動向

- 公共工事請負金額は、引き続き高水準で推移しています。

■住宅投資の動向

- 新設住宅着工戸数をみると、持家、分譲、貸家のいずれも減少しています。

■雇用情勢

- 有効求人倍率は、このところ前年を下回って推移しているものの、企業の手不足感や採用意欲は強く、雇用情勢は緩やかに改善しているとみられます。

以 上